

Budapest Open Access Initiativeの思想的背景と受容

Philosophical background of Budapest Open Access Initiative and its acceptance

岡部晋典, 佐藤翔

Yukinori OKABE, Sho SATO

筑波大学大学院 図書館情報メディア研究科

Graduate School of Library, Information and Media Studies, University of Tsukuba

{okabe,min2fly}@slis.tsukuba.ac.jp

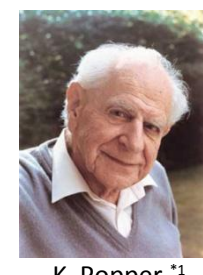
【あらまし】

本研究では近年の図書館界の潮流であるオープンアクセスとその思想的根拠について検討した

1. オープンアクセス活動においてしばしば引用されるものにBudapest Open Access Initiative (以下BOAI)がある
2. この宣言はOpen Society Institute (OSI)の影響下にある
3. OSIは投資家・篤志家のG. Sorosによって設置された
4. Sorosが私淑しているのは科学哲学者, K. R. Popperと、彼の提唱した「開かれた社会」である

よって、の作業を行った

1. Popperの哲学, 主に「開かれた社会」, Sorosによる「開かれた社会」推進事例を紹介
2. SorosのOSIが宣言したBOAIを紹介
3. BOAIの内容が、他のオープンアクセスに関する記述でどのように引用されているかを分析
4. オープンアクセスのなかで「開かれた社会」概念がどのように受容されているかを分析



K. Popper^{*1}



G. Soros^{*2}

提唱

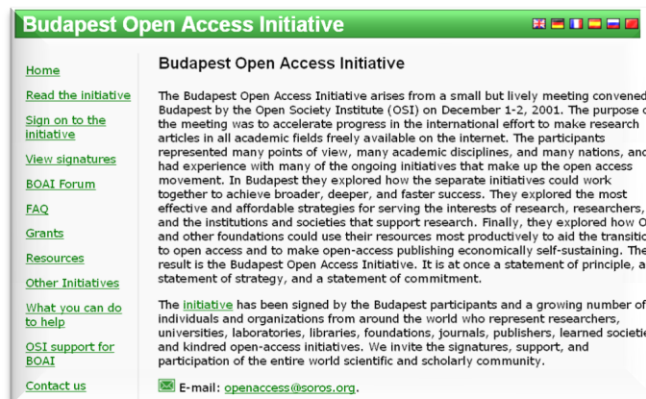
「開かれた社会」
思想

影響

設立

OPEN SOCIETY INSTITUTE^{*3}

中心的に関与



^{*1}「開かれた社会」非決定論の確立、著者近影より引用

^{*2} Photo taken by Jeff Ooi. Posted to LensaMalaysia.com, which licenses all images under the Creative Commons Attribution License unless otherwise specified.

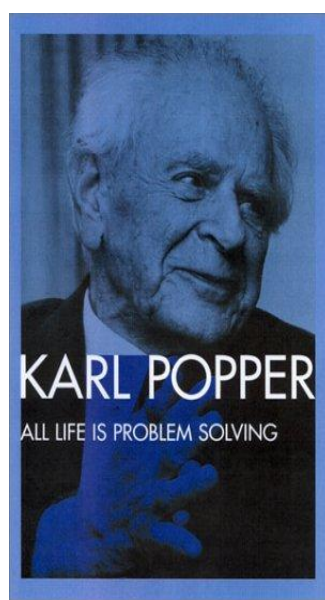
^{*3} ©2009 Open Society Institute. It is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-No Derivative License.

思想的根拠

Karl Raimund Popper

(1902年7月28日 - 1994年9月17日)

オーストリア出身イギリスの科学哲学者



^{*1}

反証可能性:
科学的理論は自らが誤っていることを確認する
テストを考案し、実行することができる。一方、
疑似科学はそのようなテストを考案できないか、
あるいはテストに掛けても言い逃れを行う

開かれた社会:
我々は常に間違いを冒しうる(可謬主義)。ゆえに、
われわれはつねに相互討論によって社会を
漸進的に進歩させなければならない。ナチスな
どの考える「賢者」による政治は「間違い」を認
めないため、常にディストピアにしか帰着しない

ヨーロッパ文明の礎はギリシャ・アテナイの相互討論の伝統。ペイシスト
ラトスがホメロスの出版を行い、それが民主運動の基礎になった。
ゲーテンベルクの活版印刷はそれを巨大に往復させたものだ

反証可能性を社会に適用→「開かれた社会」
我々は常に誤りうる
相互討論が必要
記録物を媒介にしたオープンな対話

図書館情報学
に裨益...

^{*1} This image is of book cover from Wikipedia.org (via Amazon.com)

Soros, OSI, OA

George Soros

(1930-)

ハンガリー出身の投資家、哲学者、慈善家

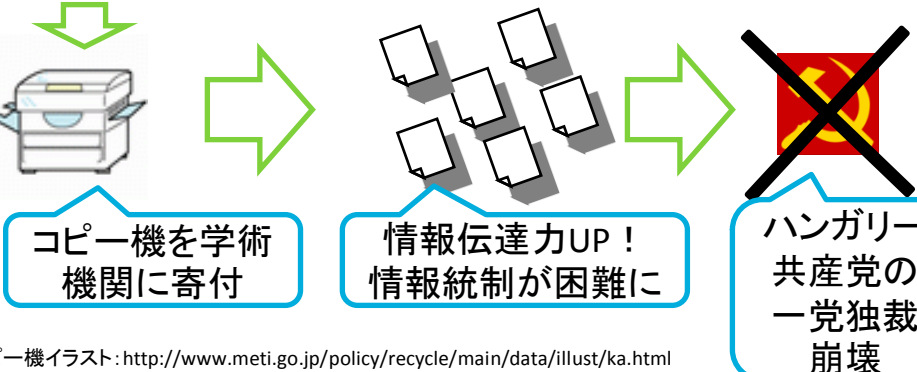
世界最大のファンドマネージャーの一人
ポンド危機の際、莫大な利益をあげる
→「イングランド銀行を叩きつぶした男」
慈善家としての面も有名
「開かれた社会」を実現するために財団を設立



G. Soros

Sorosの学生時代: London School of Economics (LSE)に入学(1949年)
Popperの哲学に触れ、私淑することに
Keynesのような経済学者か、Popperのような哲学者になる夢
→ 人種等の理由によって潰え、ウォール街へ → 証券アナリストとして活躍
→ ファンドマネージャーに → 同時に慈善事業家となる

Sorosのコピー機事件
: 1984年～1988年



コピー機イラスト: <http://www.meti.go.jp/policy/recycle/main/data/illustr/ka.html>

Sorosの慈善事業と「開かれた社会」

「ソロス財団」をハンガリーに設立(1984年)
実際に行った「開かれた社会」を実現するた
めの慈善事業の一例
: コピー機事件(左図参照)
「開かれた社会」は相互討論によって成立、
相互討論は情報のアベイラビリティ・アクセ
シビリティに担保されることを象徴

→1993年、SorosはOpen Society Institute
(OSI)を設立

OSIのInformation Program部門は学術情報のオープンアクセスを支援
ここが中心となって起草した宣言がBudapest Open Access Initiative(BOAI)
BOAIはオープンアクセス運動の契機とされる

【参考文献】

"Budapest Open Access Initiative". <http://www.soros.org/openaccess/read.shtml>,
(参照2009-05-17).

Popper, K. R. 実在論と科学の目的. 小河原誠, 薩山泰之訳. 岩波書店, 2002, 370p.

Popper, K. R. 開かれた社会とその敵. 内田詔夫, 小河原誠訳. 未来社, 1980, 380p.

伊勢田哲治. 疑似科学と科学の哲学. 名古屋大学出版会, 2002, 282p.

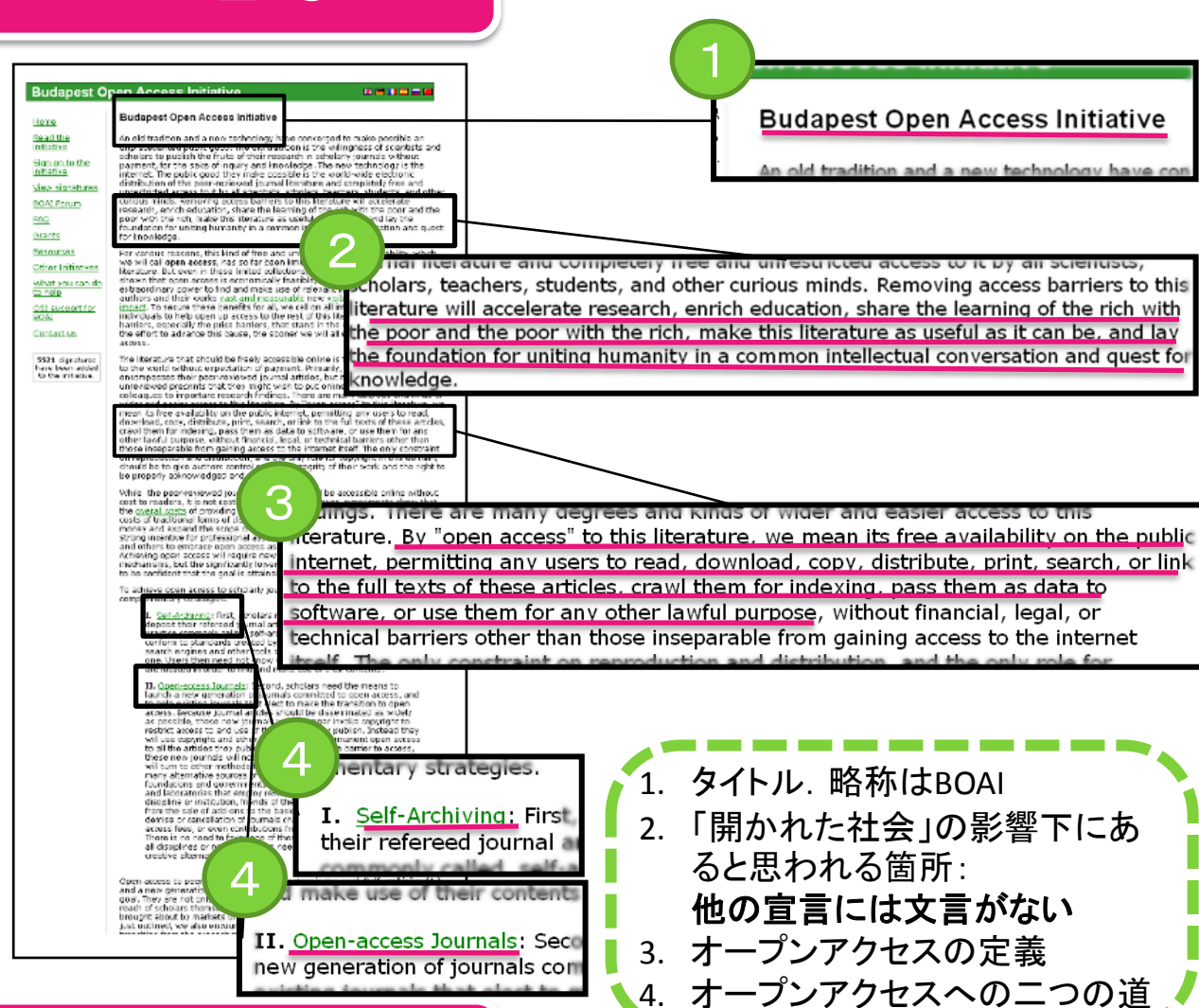
Popper, K. R. "ヨーロッパ文化の起源—その文学的および科学的根源". 開かれた社会の哲学—カール・ポパーと現代. 長尾龍一, 河上倫彦編. 未来社, 1994, 241p.

Kaufman, M. T. ソロス. 金子宣子訳. ダイアモンド社, 2004, 492p.

橋本努. ジョージ・ソロス—投資と慈善が世界を開く. インターコミュニケーション. 1999, 2000 winter号, p.160-176.

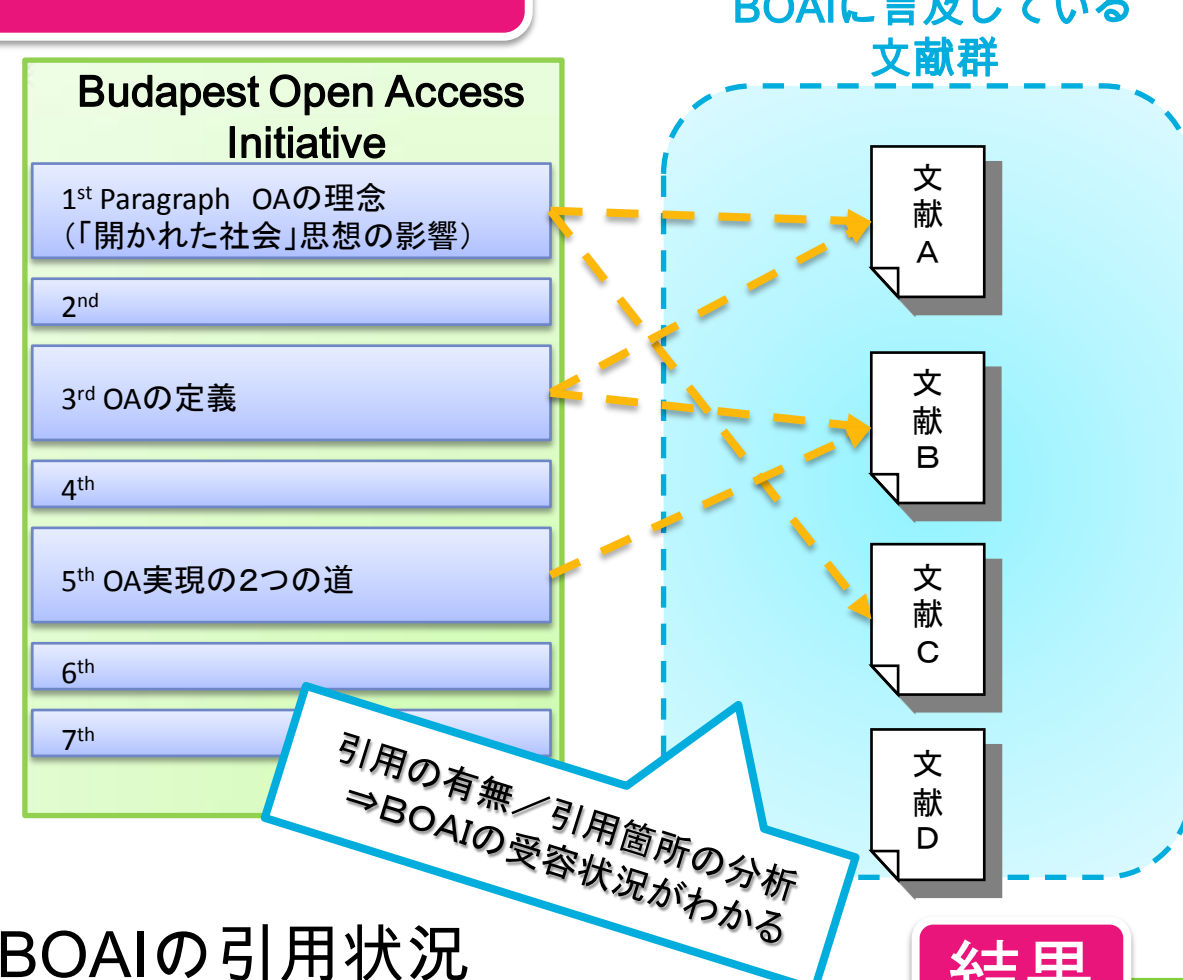
"About OSI and the Soros Foundations Network". <http://www.soros.org/about/overview>,
(参照2009-05-17).

BOAIとは？



1. タイトル. 略称はBOAI
2. 「開かれた社会」の影響下にあると思われる箇所:
他の宣言には文言がない
3. オープンアクセスの定義
4. オープンアクセスへの二つの道

引用状況調査



BOAIの引用状況

		第三段落に 言及	第三段落に 非言及
第一段落に 言及	第五段落に 言及	1	2
	第五段落に 言及	0	1
第一段落に 非言及	第五段落に 言及	1	18
	第五段落に 非言及	24	76

- BOAIに言及している文献は123件
- 第一段落(「開かれた社会」思想を含む)への言及は4件
- Soros/OSIの意図は認知されていない?

結果

- 第3段落(OAの定義), 第5段落(OA実現の2つの道)への言及は多い
- 第1段落(「開かれた社会」思想を含む部分)への言及はごくわずか(4件)
- 第1段落に言及しているものでもOSIの意図する部分に触れたものは皆無

⇒BOAIはOA運動で広く受け入れられている
⇒OSIの意図は全くOA運動中で意識されていない

考察

なぜOSIの意図はOA運動中で無視されるのか?
考えられる可能性...

- OA運動家は実践的問題にしか興味がない
さしあたっての問題のみに注目?
- 関係者の背景が多様すぎて動機が共有できない
「開かれた社会」は国によっては受容しがたい思想
- Popperが哲学者として傍流である影響
反マルクス主義・反言語哲学, 20世紀哲学の傍流

→だが「OAにおいてSorosの資金を用いることは
Sorosの意図を否が応でも反映するのでは?」
今後これらの可能性を個別に検討する必要がある

"Berlin Declaration on Open Access to Knowledge in the Sciences and Humanities".

<http://oa.mpg.de/openaccess-berlin/berlindeclaration.html>, (参照2009-05-17).

"Bethesda Statement on Open Access Publishing".

<http://www.earlham.edu/~peters/fos/bethesda.htm>, (参照2009-05-17).

Popper, K. R. よりよき世界を求めて. 小河原誠, 薩山泰之訳. 未来社, 1995, 390p.

"Bibliography of open access". http://oad.simmons.edu/oadwiki/Bibliography_of_open_access,
(参照2009-05-17).

Bailey, C. W. Open access bibliography: liberating scholarly literature with e-prints and open access journals. Association of Research Libraries, 2005, 130p.

Friend, F. J. Improving access: Is there any hope?. Interlending and Document Supply, 2002, vol.30, no.4, p.183-189.

Poynder, R. "Interview with Melissa Hagemann of the Open Society Institute". Open and Shut?. <http://poynder.blogspot.com/2005/06/interview-with-melissa-hagemann-of.html>,
(参照2009-05-17).